最優秀賞

お母さんのおび

神奈川県　湘南白百合学園小学校三年　飯沼　芽以

今年のお祭りは、思い出に残るお祭りになりました。

わたしのお母さんは、びょうきで去年十月になくなりました。それからお父さんの方の祖母に来てもらい、手つだってもらっています。

もうすぐ、お母さんのいない初めての夏休みに入るころでした。友だちと一緒に学校から帰っている時、近所のけいじ板に白はた祭りのお知らせがはってありました。帰り道は友だちと白はた祭りの話になりました。友だちは、

「ゆかたを着てお祭りに行こうかな。」

と話していました。わたしもゆかたを着てお祭りに行きたいなと思いました。

次の日、わたしはお父さんに、

「ゆかたを着て、お祭りに行きたいからゆかたを買ってほしい。」

とおねがいしました。すると祖母が、

「そういえば二かいのおしいれにゆかたがあったよ。」

と言いました。わたしはびっくりしました。お父さんに聞くと、

「お母さんが去年買っておいたゆかただよ。」

と言ったのでさらにおどろきました。

その日の夜、祖母にゆかたを見せてもらいました。緑色と黄緑色の花がらでわたしが大すきな色のゆかたでした。祖母が、ある物がない事に気づきました。それはおびです。いばらきにすんでいるお母さんの方の祖母に電話をかけ、おびのことを話すと、

「お母さんが子どものころに使ったおびならあるから送るね。」

と言ってくれました。

二日後おびがとどきました。あけて見るとゆかたとよく合う緑色のおびで大きなリボンがついていました。

お祭りの日、お母さんが買っておいてくれたゆかたとお母さんのおびを着て家を出ました。なんだかお母さんが近くにいるような気がしました。友だちが、

「そのゆかた、すてきだね。」

と言ってくれました。

お祭りから帰ってきてゆかたをぬぐと少しさみしくなりました。そして、「お母さん。また来年も着るね」と、わたしは心の中で思いました。また来年もこのゆかたを着てお祭りに行きたいです。